OG紹介

TSSテレビ新広島　報道制作センター　記者
竹下千晶さん
（平成16年度入学生）

―仕事内容を教えてください。

警察担当の記者をやっています。県庁の記者クラブにいて、警察署を回ったりして情報を探しています。人のところに通って仲良くなってヒントをもらうので、話すことが好きな私にとっては天職ですね。主には取材をして、原稿を書いていますが、リポーターをやったりもしています。土日に関係なく仕事があって、夜中に全国中継をすることもあるので大変ですが、刺激がたくさんあるので、この仕事を初めて三年間辞めたいと思ったことはないですね。

―現在の仕事を選んだ理由は何ですか。

もともとは、人に何かを伝えたいという思いから教師になろうとしていました。学生の頃にカンボジアに行ったのですが、カンボジアから帰国して、母校でカンボジアについての授業をしたんです。そのときに、生徒からの感想文の反応が色々あって嬉しかったです。自分の経験を人に伝えて、その人が次の行動を起こすと決めたときに、初めてボランティアが自己満足の域を超えるんだと感じました。それがきっかけで伝えることがおもしろいと思うようになって、マスコミを目指しました。

―仕事で気をつけていることを教えてください。

実名報道は特に気をつけています。名前を出すと、取材対象の人を社会的に殺してしまうこともあります。どこまで人を傷つけない報道をできるかは意識していますね。でも真実はちゃんと伝えたいので、どこまでプライバシーを守るのかの兼ね合いが難しいです。あと、先輩には「ありがとうと言われる取材をしなさい」と言われています。

―今後の仕事での目標は何ですか。

ＴＳＳのニューヨーク支局で働きたいです。９・11にあわせて先輩とアメリカに行ったんですが、普通の人が入れないところに入れてもらえたりして、事件について知らないことや新しい発見がたくさんあってとても刺激的でした。

―学生時代の専攻を教えてください。

私は、当時環境共生科学プログラムに所属していて、卒業論文は佐々木宏先生の下でカンボジアにおける初等教育を研究しました。当時、カンボジアは発展はしていましたが、教育面はまだまだで、まずは幼稚園教育から改善するべきだと考えたので、それがどうなっているのかを調べました。カンボジア政府の取組み、国際的な支援、ＮＰＯやＮＧＯの取組みについて調べ、どんなバランスが良いのかを考えました。実際に自分が赴いた経験や、青年海外協力隊に行かれている人の話を聞いたり、早稲田大学で研究されている方の論文を探したりと、すごく大変でした。私は、環境共生科学プログラムに所属しながらも、英語の教員免許を取るために、単位の上限をはずして週に三十一コマとか三十三コマとかいったコマ数を入れていました。単位が多かった

し、しかも私は自宅生で通学に時間がかかったので、とてもしんどかったですね。

―大学生活の思い出を教えてください。

勉強でもサークルでもなく、カンボジアに一人で五回行って、そのうち一回は現地に住んだことですね(笑)。高校二年生のときに、カンボジア出身で、地雷で両足をなくされた方の話を聞いたことがきっかけでカンボジアについて勉強し始めました。また、一方でカンボジアの子どもたちが、貧しくても幸せに暮らしているのかということについて聞く機会が多くあり、いつか見に行ってやる！と決めたんです(笑)。初めてカンボジアに行ったのはスタディーツアーの一環でしたが、そのときに私は、「ここに長い間住まないといけない、ここにやりたいことがあるかもしれない」と思いました。そこで、私は大学を一年間休んで、そのうち半年間は働いてお金を稼いで、残りの半年でカンボジアに行きました。ただ、両親の説得に一年半くらいかかったんですよ。一人暮らしや外泊も許されていなかったから、カンボジアに単身で行くなんていったら、両親が大反対で……。日本よりも危険だとされる場所に行くのに、「心配しないで」なんて、両親の気持ちも考えず、ずいぶん自分勝手だったなぁと今は思います。そんな風に、私の学生生活で印象に残っていることは海外に行きまくったことですね。あとは、宮島キャンプが私の代から始まって、その代表を友達とやったこと。今でも続いているなんて嬉しいですね。ただ、大学生にしかない日常をもっと大事にしておけばよかったかなと思います。総科バレーにも所属していましたが、ほとんど行けなくて……。朝まで騒ぐとか、今から飲みに行こうって誘いに乗ったりとかをもっとやっておけばよかったと思います。一年卒業が遅れたので、総科バレーの同級生の追い出し会のときに、私は寂しくてすごく泣いてしまったけど、来年、同じように泣けるのかなと思ってへこみました。私は、サークルではなくてサークルの友達に思い入れがあったけれど、彼女たちはサークルそのものにも思いを感じていたんだなと思います。

―総科生にひとことお願いします。

私自身が高校時代から思っていることですが、何事にも妥協しないということです。辛かったら泣いてもいいし、ぼろぼろになってもいいから、自分の好きなこと・人・物には妥協して欲しくないですね。アルバイト先で少々辛くても、腹が立っても辞めないことです。あとは親に余りお金を借りずに頑張って欲しいですね。親にお金を借りると簡単に何でもできてしまうので。もちろん出してくれるのであれば存分に甘えてもいいと思いますが、自分で稼いで頑張ったからこその達成感を得ることができるのは大きいです。そして海外に行って欲しいです。単純に面白い人との出会い、自分や日本、広島を客観的に見て考えるチャンスですから。社会人になったら長期の休みは取れないから、大学生のうちにお金を借りてでも行ってください(笑)。私が後悔していることとして、両親や祖父母をもっと省みればよかったということがあります。「お金以外で自分が親に返せるものはなんだろう？」って考えてみたり、家族を大事にして欲しいですね。あとは学生時代にしかできないことを存分に楽しんでください。

【担当】
24生　藤本　迪子
24生　安田　香穂